



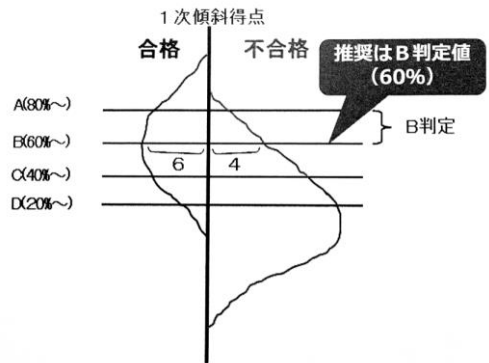
3年生、共通テスト試験で奮闘

令和6年度の大学入学共通テストは、1月13・14日の2日間にわたり実施されました。共通テストは非常に緊張感のなかで、長時間にわたる試験です。本校の3年生も例年通りに頑張り、良い結果を収めました。しかし、共通テストは単なる終着点ではなく、本格的な受験シーズンのスタートです。国公立大学への出願は2/2までに全日程を終了させ、個別試験の基準日は前期が2/25、中期が3/8、後期が3/12です。共通テストから進路が確定するまで、現在の3年生は受験勉強と各大学の個別試験とが続く激動の二ヶ月に突入しています。

◆ 共通テストリサーチと受験校選定（目標校・実力相応校・合格確実校）

3年生は、共通テスト試験日の一週間後の土日にクラス担任と最終面談を行いました。共通テストの自己採点と、河合塾や駿台・ベネッセなどの「共通テストリサーチ」も参考にして、国公立大学の出願校と併願する私立大学とを決断するためです。現在、各自が最終的な出願手続きを行っています。

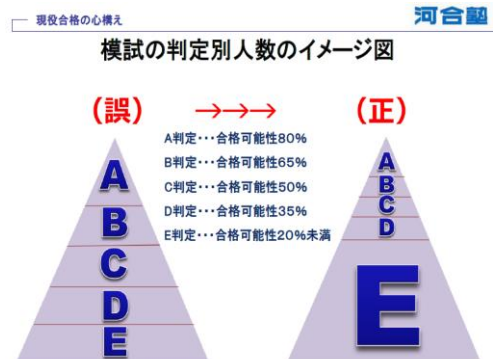
「共通テストリサーチ」とは、全国のおよそ40万人もの自己採点データを全国集計したものです。集計は志望校も付して行われるため、右図のように、各大学の学部・学科ごとに合格可能性をA～Eまで検索することが可能です。また、実際の出願では「目標校」のほかに「実力相応校（B以上）」や「合格確実校（A判定）」を組み合わせるのが一般的です。



◆ 模試における志望校記入について

2年生の模擬試験では、志望校の判定が得られるようになりました。しかし、全てがE判定だと、自分の実力を見極めるのが難しく、やる気もわきません。今後は、1年かけて少しずつ目標に近づいていきたいですね。

理想の「目標校」はもちろん記入しますが、「現在の実力相応校」も予測してみませんか？客観的な学力を確認し、最終的な合格への道筋を見つけましょう。



2月の目標

- | | |
|------------|------------------------------|
| 共通 | 土曜日・日曜日の学習室を利用して、考査の学習をすすめる。 |
| 1年生 | 学年末考査に向け高校1年次に納得のいく成績を残す。 |
| 2年生 | 模試・学年末考査を通じ3年次を見据えた学習に取り組む。 |

右のカレンダーを見ると学年末考査があり、今年度の通常授業は残りわずかとなりました。節分を経ると季節は春へと向かいますが、この厳寒の季節は落ち着いて学習に取り組める時期でもあります。

まず、今年度最後の定期考査を目標に学習し、1年間の成果をカタチ＝成績として残すこと、そして新年度の芽吹きに備えましょう！

◆河合塾全統共通マーク高2模試…2/3（土）

◆3学期期末考査…2/19（月）～22（木）

今年度最後の定期考査です、計画的な学習で有終の美を飾ろう。

◆特編授業…2/28（水）～

各教科の発展的な内容を扱ったり、次年度授業に向けてさらに力をつけたりする講座です。限られた日数を集中して取り組みましょう。

◆卒業式予行・3年生を送る会…2/28（火）

1, 2年生による生徒会が企画運営をおこなう3年生を送る会です。心を込めて3年生を送りましょう。

◆卒業式…3/1（金）

3年生の旅立ちの日です。多くの3年生が国公立大の前期合格発表をひかえており、期待と不安の入り交じった卒業式です。例年、卒業式翌日には登校して中後期試験の学習を再開します。ガンバレ、3年生！

★県教委主催 未来をひらく～信州の先生になろう～★

・日時：2月23日（金）13:30～15:30 ・会場：県立長野高校
小学校・中学校・高校・特別支援学校の先生を目指す人のための講座です。若手の教員が参加し、先生としての体験談や先生になるための方法をお話しします。（申込は右のQRコードから：
ペ切2/14）



★県民文化部主催 理系人材とのクロストーク&人生設計トーク～★

・日時：2月15日（木）18:00～19:30 ・会場：TOIGO WEST 4F
理工系社会人や学生からキャリア形成のアドバイスを受ける講座です。進学・就職後、どんな研究&仕事をしているのか自由にクロストークを行います。（申込は右のQRコードから：ペ切
先着順30名）



今月の3年生 「合格に向け、ラストスパート！」

1月22日から国公立大の出願が始まりました。全国の高校生・浪人生が立ち向かう国公立大学の平均倍率は3～4倍の狭き門です。「現役生は最後の最後まで伸びる」という格言を信じてラストスパートに入っています。裏面には、今回共通テスト試験を終えた本校3年生が協力してくれたみなさんへの貴重なメッセージを掲載しました。

2月	
1木	
2金	A
3土	○ 全統共通模試[2]
4日	○
5月	
6火	学年成績会議[3]
7水	単位認定会議 ◎
8木	
9金	P
10土	○
11日	○ 建国記念の日
12月	○ 振替休日
13火	
14水	◎
15木	
16金	
17土	○
18日	○
19月	▲
20火	▲
21水	▲
22木	▲
23金	○ 天皇誕生日
24土	○
25日	○
26月	● クラスマッチ
27火	● クラスマッチ
28水	▽ 特編授業
29木	● 卒業式予行 3年生を送る会

※印は学習室開放日

高校3年間を振り返って後輩へのアドバイス

◆(共通テスト試験まであと2年の)1年生へのメッセージ

- ◎毎日の授業に真剣に取り組む。(多数)
- ◎課題はしっかり出そう。(多数)
- ◎単語テストを馬鹿にしない。(多数)
- ◎英単語、古典単語は完璧にマスターしておくべき。数学は3年になってからでは遅い。(多数)
- 少しずつ継続的に勉強を続けると、2年後の負担が大きく減る。(複数)
- 分からないことは後回しにしない。(複数)
- 英検など資格を取っておくと有利になる。(複数)
 - ・ 進路選択は焦らず、進学先の情報を吟味し納得した上で進路を探してください。
 - ・ 学校の授業で基礎を固める。
 - ・ 単語は早いうちに覚えておけ、という意見に耳を傾けておけばよかった。単語を早くから覚えなかったことを後悔している。
 - ・ 英語は特に1年生から力を入れたほうが良い。
 - ・ 読書は大事。
 - ・ 今のうちから勉強習慣をつけておかないと大変なことになります。生活習慣は大事です。少しでもいいので毎日勉強する習慣をつけましょう。
 - ・ 勉強は大切だけど部活や委員会、趣味も大切にしてください。できれば本か文字数の多いマンガをたくさん読んでおくと読むペースが早くなると思います。読書で身につけた知識はだいたい役に立つので損はないと思います。
 - ・ 1年生の時に習ったものはしっかり勉強しておくべき。数学や古文・漢文は基礎ができないと問題を見ても分からないので、部活が終わって疲れていても数学の問題を解いたり、単語・文法をかくにんすべき。
 - ・ 寝るな、2年後に響くぞ・・・泣 泣 泣
 - ・ 今からわからないままのところを絶対に作らないでほしい。3年になって理解から入るのは大変。
 - ・ 高校生活の中で勉強の習慣をつける。必ず毎日机に向かう。
 - ・ 1年生のうちから受験に使う科目をしっかり調べておくべき。
 - ・ 部活に全力を。授業の小テストは真面目に毎回やった方がよい。
 - ・ ただ苦手な勉強だけをするのではなく、得意な勉強も混ぜながらやっていった方がよいと思う。私は英語が大嫌いだったので英語の勉強をする前には大好きな日本史の勉強をやってモチベーションをあげてからやっていました。
 - ・ 色々な大学や学部について興味を持つことが大事だと思う。私は1年生のときに興味があった分野とは別の分野に進学することになりそうです。
 - ・ 人生設計をすると勉強する気になります。自分の進路がまだ決まらない人は、憧れや難易度の高い大学から考えてもいいのでは？
 - ・ あと2年あれば何でもできます！目標を高く掲げて、地道に学力向上を目指してください。
 - ・ 勉強も頑張ろう！班活も頑張ろう！文化祭も頑張ろう！

「何のために学ぶか」への挑戦状

今回は「何のために学ぶか」という問いに対して、省察のまなざしを向けてみたい。ただし、よくありがちな「自分のやりたいことや目標をはっきりさせて学習しよう!」などと言いたいわけでは決していない。むしろ学びに目的を持たせる構図そのものを省みたいのだ。

冒頭の問いには、ある前提が含意されている。それは「学ぶこと(手段)→何かの実現(目的)」という構図だ。私はこれを「目的-手段関係」と呼び、この関係が持つ問題点を指摘したい。

「何かのために学ぶ」というスタイルは現代社会においては、ごく当たり前のものだ。偏差値や順位をあげるために勉強する。行きたい大学に入るために勉強する。資格を取るために大学で学ぶ。多くの人が「何か目指すべきもののために一生懸命学んでいる」。ここに懐疑の目を向けること自体、真剣に学ぼうとする誰かに対する冒涇だと言われてしまうかもしれない。

目的→手段

だが、落ち着いてこの構図を見直してもらいたい。「目的-手段関係」において、学びは「手段」に過ぎない。極論、「目的」が達成できるなら別に学ばなくてよい、という考えすら頭をよぎる(※1)。「目的-手段関係」は、学びを手段に落とし込むことで、学ぶ行為の尊さを貶める危険性を孕む。それだけではない。ときに「目的-手段関係」の中では、目的実現に必要なない無駄なものをそぎ落とそうとする圧力がかかる。より合理的に、より生産的に、より効率的に…。こうした無駄のなさの要求がいかなる問題を持っているかは前回の Logos room でも指摘したとおりだ。

さて、ではどうしたら、「目的-手段関係」の問題から脱却できるか。ヒントになるのは「こどもの遊び」だ。皆さんも思い出してもらいたい、5歳前後のころどんな風に遊んでいたか。例えば砂遊びや雪遊びに興じたとき、その遊びは真剣なものではなかったか。我も時間も忘れ、遊びに没頭したはずだ。このときの「遊び」は決して何かのための「手段」ではない。遊ぶこと自体が「目的」になっていたと言ってよい(※2)。「学び」も同じようにできるはずなのだ。我も時間も忘れて、学ぶこと自体を楽しみ、学ぶこと自体を目的にすることが、決して「手段」だけに陥らないとき、そこに学びの尊さを見ることができるとは思えないか。

とはいえ、である。おそらく私たちは「目的-手段関係」から逃げ切ることにはできない。この構図は近代社会・資本主義社会がもつ社会構造そのものであるからだ。この社会に生きる以上、この枠組みに囚われてしまうことは、避けようがない。私たちに身近な場に戻せば、大学に入るため、資格を取るため、やりたい仕事に就くため、みな学びを手段することを続けていかざるを得ない。しかし、そこに「何かのため」ではない、「学びたいから学ぶ」「面白いから学ぶ」という側面を部分的に入れ込むことくらいは許されるはずだ。いや、むしろそれを許容できる社会にしていかなければなるまい。

純粹持続

※1…ドイツ出身の哲学者ハンナ・アーレントは、全体主義の分析と批判を行う中で、「目的」はあらゆる「手段」を正当化してしまうことを指摘する。「手段」の正当化こそが「目的」の本質だ、と説く。「目的のために手段を選ばない、とならないように」などという生易しい主張ではなく、目的を重視すること自体が、手段を選ばないナチズムやスターリニズムを生んだという恐ろしい分析である。

※2…時間も我も忘れるような体験にこそ、人間の本質を見るという考えは多くの哲学者に共通する。道元(身心脱落)、西田幾多郎(主客未分)、ベルクソン(純粹持続)、ジェームズ(純粹經驗) etc